

## 避難所における安心・安全の確保

質問Ⅱソーラーパネルを利用した照明設備を  
答弁Ⅱ代替電源の設置を見当する



筒井 一水 議員

南海トラフを震源とした地震をはじめ台風災害などによる倒木や土砂災害などにより、長期間にわたり停電が起きると想定される。

東日本大震災のとき、電気の復旧が早くて7日、熊本地震では、5日で復旧したと聞く。大災害が発生した場合、長期間の避難所生活を強いられることは想像されるが、停電復旧まで夜間に安心・安全に生活していく環境の確保が必要と考える。

町が指定している避難所には、自立的な電源確保はされているか。また、停電

時に対応できる設備は備えているのか。

### 筒井総務課長

平成29年10月の台風21号では、孤立地域が多数発生し、横地区では3日程度停電となった。

役場本庁舎や仁淀病院は、自家発電機設備により、一部用途は制限されたが、約72時間電源は確保されており、今後、吾北・本川各総合支所、また現在建設中の仁淀消防組合消防本部についても自家発電を備える予定となっている。

ただ、一般の避難所の停電対応については、波川公民館では発電機を接続して施設内の照明を点灯できる状況となっているが、それ以外に、停電対応している避難所はないのが現状である。

### 筒井議員

施設内では保安灯があれば、夜間の照明はわずかながらの明かりでも、避難者の方にとっては安心感を確保されるのではないのか。

ソーラーパネルなどを利用した蓄電による照明設備、施設内では保安灯を設置することで、停電時における照明の確保ができると考えるが。

### 筒井総務課長

避難所に、ソーラーパネルと蓄電池の設置は、防災上の避難所として整備する場合、自家発電装置は、補助対象だが、ソーラーパネルと蓄電池は、現在対象外となっている。

自家発電装置やソーラーパネルによる代替電源の設置については、検討している。

## 清水公民館の改修 地域住民の要望は

### 筒井議員

清水公民館は、耐震診断を受け、改修工事を計画し

ているが、地域からの要望を町としてどのように検討しているのか。

### 山崎教育次長

地域からは「今まで通り地域の公民館として利用したい」また、改修となれば、高齢者が多く、2階に上がるのは大変であり「エレベーターをつけてほしい」「湿気対策をしてほしい」といった要望を受けている。建物の形状や利用の状況を踏まえ、高齢者でも利用しやすいように1階部分を重点的に改修し、公民館として利用できる方策をJAコスモスと協議を重ねている。

### 筒井議員

清水公民館は、JAコスモスと建物が隣接している。JAでは葬祭事業を行っているが、改修によりJAの葬祭会場がなくなることを地域住民は危惧しているが、町としてどのように対応するのか。

### 山崎教育次長

公民館の運営では、葬祭場としての貸し出しは行っていないが、貸し出しが可能かどうか、県の関係課に確認をしている。可能であれば地域の実情も考慮し、貸し出しができる方向で検討する。

法の上で、公民館の利用できない場合には、現在のJAの葬祭の部分を地域の集会場と位置付け、葬儀などもできるような方法も考えられるが、地域住民の意見を聞きながら検討していく。



清水公民館・避難所